

研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成26年11月25日（火）
学力アップ部

5年1組の子どもたち、福田先生ありがとうございました！

【単元名】 朗読をしよう

【教材文】 「大造じいさんとがん」 作 棕 鳩十

【本時目標】

- 大造じいさんの言葉や行動に表れた残雪への心情の変化を、叙述から読み取り、読み取ったことをもとに朗読を工夫しようとすることができる。（関心・意欲・態度）
- 相手に大造じいさんの気持ちが伝わるように工夫して朗読するために、残雪に対する大造じいさんの気持ちを言動や情景描写から、読み取ることができる。（読むこと）

【本時展開】

1 学習課題をつかむ。

- (1)読み方をもとに考えるという読みのめあてを確認する。
 - 着眼点＝大造じいさんの会話文・行動が表れている
 - 思考方法＝大造じいさんの気持ちの変化を比べる
 - ・既習図の掲示

(2)本時のめあてをつかむ。

3の場面の大造じいさんの気持ちを読み取り、朗読に生かそう。

2 読み方をもとに、大造じいさんの気持ちの変化を読み取り、登場人物の関係を人物関係図に表す。

- (1)大造じいさんの行動や会話文、情景描写に線を引き、そこから読み取れる心情を書く。
 - ・学習フリントの工夫

(2)大造じいさんと残雪の関係を人物関係図に表す

・人物関係図に表現する

3 人物関係図についての交流活動を行う。

- (1)ペアによる交流活動をする。
 - ・ペアによる対話活動

(2)全体交流をする。

・小黒板で操作させ、全体交流をする

(3)「大造じいさんが撃てなかった」伊都版の理由を考える。

・グループで話合う

4 読み取ったことをもとに、朗読記号を書き、工夫して朗読する。

- ・文章に朗読記号を書く
- ・朗読記号の掲示物活用

・ペアで朗読を聞き合い、読み方を付加修正する。

5 本時のまとめをする



【個人で読み深める様子】



【ペアで交流する様子】



【グループで交流する様子】

（福田先生の自評）

- （関心・意欲・態度）の面では、ある程度できていた。
- （読むこと）個人差がとても大きいと感じた。最後まで行き着かない子がいた。しかし、まとめを書くことができ、グループで交流もできた。
- 教師が読み取らせたい内容と子どもの考えが違ったところが課題であった。

【協議会で話し合ったこと】

- 人物関係図を用いたことで、自分の考えを表現することができていたので、有効な手立てであった。
- 「朗読しよう」という単元のゴールを持たせるために、モデルである「しき先生」をG Tに招いたことは、有効であった。あこがれを持たせることは大切である。
- 「朗読、人物関係図、読み取り」とすることが多かった。最後まで読み進めていない子がいたので、まずは、線を引かせて、引いた所を出し合わせる。そして、教師が読み取らせたい所は、教師が提示する。その後、みんなに心情を読み取らせるようにする。
- 人物関係図は、大造じいさんと残雪の何の関係なのかわかりにくい。そして、場面で1回位なので、どこで変わったかが明らかにならないように感じた。
- 大造じいさんの残雪に対する見方や考え方の変化を表すためのものであるので、人物関係図の「距離」では、難しい。残雪への見方をハートの大小等で表すといい。
- 朗読の場面では、「ぼくは、△△がすごいと思ったので、△△の場面を読む」というように絞っていくといい。
- 人物関係図では、「ライバル」という言葉を大切にしていってもよかったのではないかな。
- 朗読場面では、子ども同士で読みの違いを明らかにする相互評価を入れてみるといい。
- 人物関係図に表したその理由を記述させ、そこを朗読場面にするといい。
- 発問を焦点化させたこと（なぜ撃てなかったのか？の一番の理由）で、とても盛り上がった。
- 音読の量を増やすこと、しっかりと子どもに読み込ませておくことが必要である。
- 単元を貫く言語活動を設定することにより、本時の中で扱う内容が増えることで、読みが深まらなくなることは、研究としてのひとつの課題である。

【安河内指導主事の主な指導・助言】

1 主題研究に対する姿勢

- ・福田先生がチャレンジしてある姿がすばらしい。そして、授業改善を本気で考えてある教師集団がすばらしい。

2 単元の目標の設定

- ・各学年の目標及び内容を子どもの実態に応じて明確にすること。人間関係図は、根拠がはっきりせず、個人の読みである。だから、「朗読」だけに絞ってもいい。
- ・単元のゴール像をもっと明らかにしていく。そうすることで、学習内容が明らかになっていく。子どもと一緒に学習計画を立てていく事が大切である。

3 発問の焦点化

- ・優れた叙述だけに絞っていく。「残雪に対する見方が大きく変わったところはどこか？」②「どの文や言葉を選ぶか？」③「選んだ理由は？」というように流す。また、「どこに感動したか？」「何を伝えたいのか？」「どんな朗読をするのか？」というように流す。このように、焦点化することが大切である。

4 教科書の手引きの活用

- ・手引きは大変よくできている。解説書とリンクして、指導の目標・内容・方法を決める。



【人物関係図を操作し説明する様子】



【全体交流する様子】



【読みを助ける掲示物】